

第2学年 国語科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「秋がいっぱい」 教材名「秋がいっぱい」

2 単元の目標

言葉には事物の内容を表す働きがあることに気づき、秋の様子を表す言葉を使える。書いた文を読み返し、知らせたい様子に合う言葉かを確かめられる。言葉の働きを確かめ、友達との交流を基に自分の学習を見直そうとする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①言葉には事物の内容を表す働きがあることに気づき、秋の様子を表す言葉を使っている。（〔知識及び技能〕(1)ア）	①「書くこと」において、書いた文を読み返し、知らせたい様子に合う言葉かを確かめている。（B(1)工）	①学習の見通しをもち、単元で確かめたいことに進んで取り組み、友達の言葉や自分の記録を基に、読み方・表し方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

(1) 単元について

秋に関わる言葉を、自分が見聞きした様子と結び付けて使う。言葉を集めるだけで終えず、その言葉で何が伝わるかを確かめる。学習指導要領のB(1)工を中心に据える。関連する知識・技能として〔知識及び技能〕(1)アを、言語活動の中で確かめる。年間計画の重点は知識・技能であり、本案ではそれを使う言語活動の関連項目としてB(1)工を加えている。

(2) 児童について

(学級の子どもの様子を先生が書く)

(3) 指導について

学校や地域で今確かめられる様子を選び、物の名・動き・色・音を分けてメモする。教師の資料を見た場合は自分で観察した物と区別する。家庭での行事経験を全員に求めない。秋は葉の色や落ち葉の音など、実際に観察できた変化を取り上げる。おおむね満足できる状況は、書いた文を読み返し、知らせたい様子に合う言葉かを確かめているという姿で捉える。使った言葉を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。

5 指導と評価の計画（全2時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○季節の様子を観察して語を集める。様子に合う語を選んで短い文章にする。	学習状況を見て支援する。
	2 （本 時）	○読み合って思い浮かぶ様子を比べる。語を直した理由を伝える。	知①・思①（発言・学習記録）



6 本時の指導 (2/2)

(1) 本時の目標

書いた文を読み返し、知らせたい様子に合う言葉かを確かめられる。

(2) 学習過程

段階	学習活動 (○主な発問) ・ 予想される児童の反応	指導上の留意点 (◎評価)
導入 (分)	本時に使う教材・前時までのノートを確かめ、自分の最初の考えを短く書く。 ○「秋に見付けた様子を、どんな言葉で知らせたいですか」 【めあて】秋に関わる言葉を、自分が見聞きした様子と結び付けて使う。 〈予想される児童の反応〉 ・ 同じ季節でも見付けた物が違う。	本時に考える対象を確認し、既に分かったことと、今日確かめたいことを分ける。児童の最初の言い方を残し、まとめて比べられるようにする。
展開 (分)	○「秋に見付けた様子を、どんな言葉で知らせたいですか」 学校や地域で今確かめられる様子を選び、物の名・動き・色・音を分けてメモする。教師の資料を見た場合は自分で観察した物と区別する。家庭での行事経験を全員に求めない。秋は葉の色や落ち葉の音など、実際に観察できた変化を取り上げる。 自分の語や文、話し方を試し、相手が受け取った内容と比べる。直す箇所を自分で選び、理由とともに記録する。 〈予想される児童の反応〉 ・ 同じ季節でも見付けた物が違う。 ・ 色だけでなく音や手触りも知らせたい。 ・ 似た言葉でも想像する様子が違う。	学校や地域で今確かめられる様子を選び、物の名・動き・色・音を分けてメモする。教師の資料を見た場合は自分で観察した物と区別する。家庭での行事経験を全員に求めない。秋は葉の色や落ち葉の音など、実際に観察できた変化を取り上げる。 想定するつまずき：季節の固定したイメージだけを写す、見ていない風景を見たこととして書く。 児童の考えを教師の想定した言い方にそろえない。理由が確かめられる考えは残し、根拠が異なるときはその違いを板書する。 ◎思① 書いた文を読み返し、知らせたい様子に合う言葉かを確かめている。(発言と学習記録) ◎知① 言葉には事物の内容を表す働きがあることに気づき、秋の様子を表す言葉を使っている。(〔知識及び技能〕(1)ア)(使った言葉・音読や表記の確認)

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
まとめ (分)	【まとめ】今日確かめた言葉や表現と、それによって分かったことを対応させて自分の言葉でまとめる。 学習前の考えと比べ、付け加えたこと、残したこと、その理由を記す。 〈予想される児童の反応〉 ・ 友達の考えを聞いて、自分の理由を詳しく説明できた。 ・ 似た言葉でも想像する様子が違う。	まとめの文を先に与えて写させず、児童が本時に扱った具体的な言葉を入れる。書くことが難しい場合は口述を記録する。次の学習では、その記録を使って自分の表し方を確かめる。 ◎態①（学習前後の記録と、見直した理由）

（３）板書計画（縦書き・右から左へ）

右端に教材名とめあて、その左に問い「秋に見付けた様子を、どんな言葉で知らせたいですか」。中央は児童が使った語や文の例を並べ、確かめる箇所に印を付ける。その左に直す前と後の表現を並べ、変えた理由を線で対応させる。左端に、今日確かめた言葉の使い方を児童の言葉でまとめる。縦書きで右から左に学習の順をたどる。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
 みえ先生ラボ



AI三重